

「肱川の減災に係る取組方針」における これまでの取組状況について

【取組の一部事例紹介】

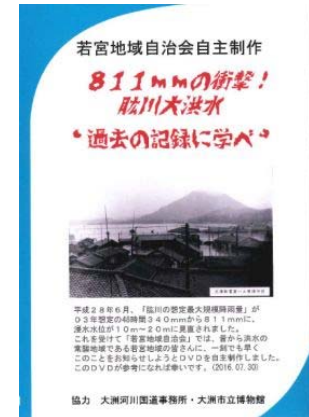
平成28年12月26日

肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会

若宮地域自主防災組織の取組状況

- 若宮地域自主防災組織では、新たに住まわれた人や世代交代などにより意識が薄れていることを懸念し、独自にDVDを作成。「肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会」事務局もDVD作成に協力。
- 若宮地域自主防災組織主催でDVDの上映と住民説明会(意見交換会)を開催。「肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会」構成員である大洲市と国土交通省は、説明会に参加し質問に対する回答や助言を実施。
- これにより、若宮地区住民においては、水防災に対する意識向上が図られ、地域イベントでの水防災教育の実施にも発展した。

日時場所：平成28年7月27日(19:00~20:30)、大洲市肱北公民館 若宮分館
 主催者：若宮地域自主防災組織(若宮地域自治会)
 参加者：若宮地域自主防災組織、若宮地域住民(約80名)、
 肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会



肱川における過去の水害、地域住民の証言等をまとめたDVDを自主防災組織自ら作成

意見交換会での意見等

- ・想定最大規模の降雨であれば、避難先はどうすればよいのか。
- ・ハード面での整備も大事だが、避難方法や避難行動を大洲市や国交省で考えて欲しい。
- ・近県でこのような降雨があるということは、大洲でも起きる可能性はある。たまたま最近災害がない、地震もない。九州等他の地域は甚大な被害であるため、安心してはいけない。

協議会からの回答等

- ・今回の想定は、水防法の改定で公表することとなった。避難計画等については、大洲市・県・国(气象台含む)が減災対策協議会を設立して協議している。
- ・当該地区では、10m以上浸水するため高いところへの避難になるが、道路や土砂災害の情報も必要であり、今後避難計画の立案が必要となる。
- ・想定最大だけでなく計画規模、近年の大出水や通常の出水にも気をつけて欲しい。防災に関して、市、県、国で情報を提供しているため活用して欲しい。



大洲市の洪水ハザードマップを参考にした浸水イメージ動画



DVD上映・意見交換会の様子

地域イベントにおける洪水被害の歴史等を踏まえた水防災の意識向上の取組

- 新町駅前商店会は年2回春と秋に実施している「新町駅前どか市」イベントで、若宮地域自主防災組織が、自主製作による浸水イメージ等をまとめたDVD放映を今回初めて実施した。
- 新町駅前商店会から「肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会」事務局に協力要請があったため、イベントに参加し過去の洪水写真などのパネル展や、訪れた方々に現在の水防災に対する取組状況や住民自らの取組（行動）の必要性（自助、共助、公助）などの説明を行った。
- このイベント地区周辺には、昭和18・20年の洪水を体験した人が多数居住されていることもあって、パネル展が契機となり被災時の状況を見学者に説明するなど、地区住民が互いに水害に対する意識を共有できる場となった。

日 時 場 所	平成28年10月16日（土）（10：00～15：00）、新町商店街
主 催 者	新町駅前商店会 どか市実行委員会
参 加 者	若宮地域自主防災組織、地域住民（約300名）、肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会

イベントでの反応

- ・S18年の写真を見てとても怖かったことを思い出した。長い間市内中心部が浸水することはなかったが、災害について若い人たちにも伝えておきたい。
- ・平成7年洪水では会社の駐車場に置いていた自動車が浸水して廃車になった。20年経っているが自分が経験した事は覚えているので子供たちに話しておきたい。
- ・若宮地区自主防災組織が作成したDVDを見て数字で言われても分からないが映像で見たらわかりやすかった。
- ・新しい基準になって浸水する水位が深くなって避難の場所や方法が変わってくるという事だが、要は普段からひとり、ひとりが危機意識をもって何かあったら自分で行動できるようにしておくことが必要だ。



昭和18年の洪水経験者が説明



家族連れも見学



洪水経験の無い中学生も見学



若宮自主防災組織の作成したDVD上映及び説明



国交省職員による説明

「災害・避難カードの作成」の取組状況（肱川水系）

- 肱川については、5月25日に「肱川の減災に係る取組方針」を策定（9月12日第2版）。また、5月30日には、洪水浸水想定区域図（想定最大規模、計画規模）及び家屋倒壊等氾濫想定区域を公表。一方、内閣府が実施している「災害・避難カードモデル事業」について、肱川の三善地区が今年度モデル地区として事業を実施。
- 三善地区自主防災組織が主体となり、住民自らが「災害・避難カード」を作成できるようにするためにワークショップ等を開催する事業であり、第1回ワークショップを8月28日に実施。第2回ワークショップが11月20日に開催され、それらの取組に関する支援・助言を行うため「肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会」構成員も参加。
- 協議会構成員により、肱川の過去の洪水や想定される水害・災害、防災情報や避難等の情報提供を行った結果、住民の水防災に関する意識向上が図られ、「災害・避難カード」の内容充実に寄与している。

日 時 : 平成28年11月20日 (9:30~12:30)
 場 所 : 三善公民館 2階大ホール
 参 加 者 : 三善地区自主防災組織、三善地区住民(約60名)、
 内閣府(防災担当)、肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会

- 【第1回WS (8/28)】
・地域の災害について学ぶ
- 【第2回WS (11/20)】
・「災害・避難カード」作成
- 【第3回WS (1/29予定)】
・「災害・避難カード」を基に避難訓練

災害・避難カード

避難の合図	避難場所	いつ	誰に	連絡先
土砂災害 避難準備情報	〇〇集会所	土砂災害警戒情報	A子さん	090-XXXX-XXXX
氾濫の 避難勧告	〇〇寺	誰を気にかける？ 気にかかる人と一緒に避難する際の留意事項 (持ち物等) 持病のくすり 老眼鏡		

防災行政無線が聞こえないとき
0120-00-8863

各機関情報提供等

- 【松山地方気象台】
・防災情報とその利用
- 【大洲河川国道事務所】
・肱川での過去の洪水、想定される水害、洪水予報の情報伝達
- 【大洲市】
・避難の考え方と取組
・公共施設(避難所)の耐震化・ハザードマップについて
- 【愛媛県】
・土砂災害について

意見交換結果等

- 4地区(各2班)に分かれ避難計画を話し合い「災害・避難カード」作成。
 その後、各地区の代表が発表。
- 【多田地区】
・一次避難は各集会所へ避難。
・二次避難は高台(環境センター等)避難。
 - 【東宇山地区】
・各集会所へ避難。
・長期化の場合は三善公民館へ避難。
 - 【和田地区】
・土砂災害、水害別に避難場へ避難。
・水害・土砂災害同時発生時は避難ができない。
 - 【深部地区】
・緊急速報メールを活用する。
・基本徒歩で三善公民館へ避難。

家族(頼りになる人)の緊急連絡先		持ち出すもの(避難先で手に入らないもの)	
氏名	連絡先(職場・携帯など)	<input type="checkbox"/> 紙おむつ	<input type="checkbox"/>
B子さん	090-XXXX-XXXX	<input type="checkbox"/> 粉ミルク	<input type="checkbox"/>
C夫	089-XXXX-XXXX	<input type="checkbox"/> めがね	<input type="checkbox"/>
区長さん	090-XXXX-XXXX	<input type="checkbox"/> スマホ充電器	<input type="checkbox"/>
かかりつけ医	089-XXXX-XXXX	自分の居場所を伝える方法(災害用伝言ダイヤル) 171をダイヤル! → 音声に従って録音	

意見交換全体の様子

